

平成31年度 全国・岡山県学力学習状況調査・倉敷市学力調査の結果分析と対策

平成31年4月18日に全国・岡山県学力学習状況調査・倉敷市学力調査が各学年で実施されました。本校では今後の学習に生かすために、その結果を全職員で分析しました。

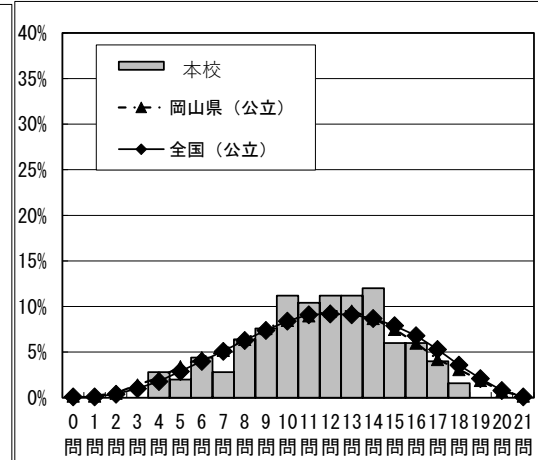
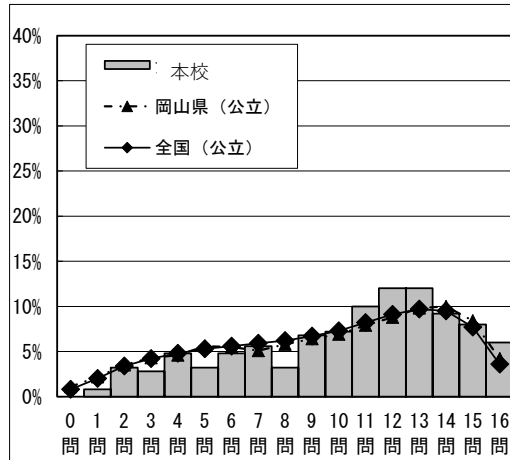
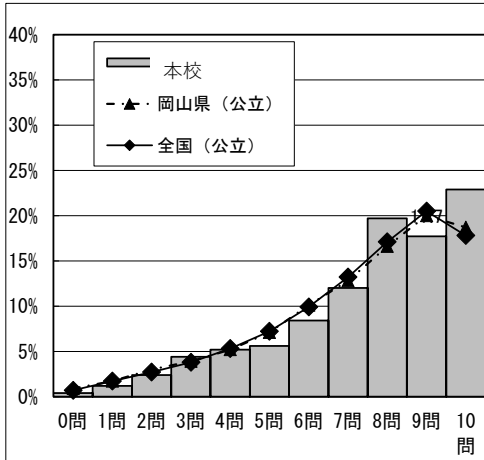
1 学力状況調査の結果と分析

(1) 学力状況調査の結果 すべての学年と教科において、全国・県・市の標準スコアを上回りました。

3年国語

3年数学

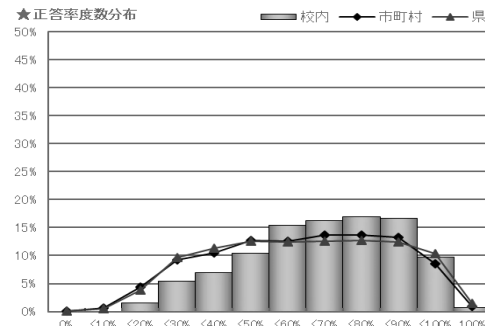
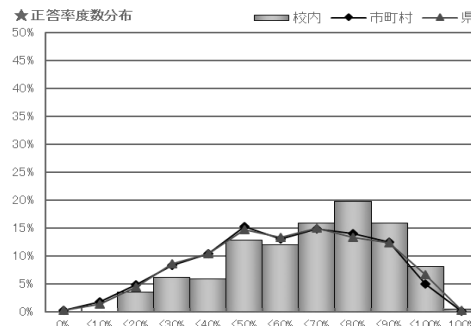
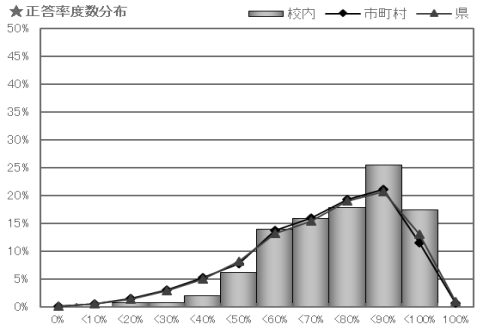
3年英語



2年国語

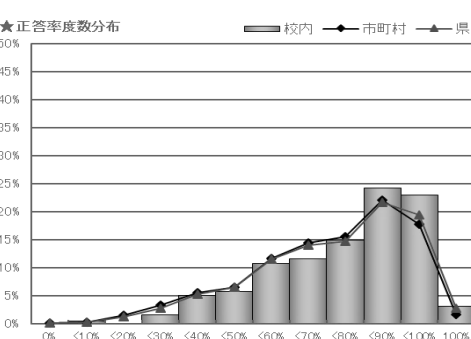
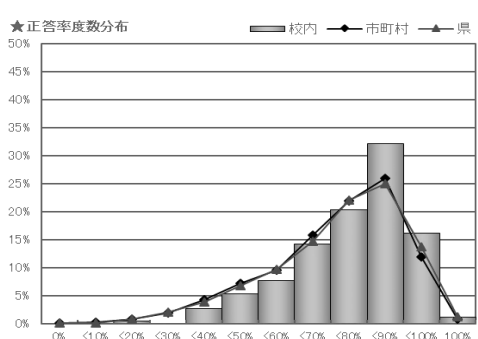
2年数学

2年英語



1年国語

1年数学



(2) 結果分析と今後の対策

教科	結果分析	対策
国語	漢字の読み書きは基本的に得意である。県平均・全国平均を大きく超えてはいるが、難解な語句については、さらに補強を図りたい。	新しい単元に入る際に、意味調べや短文づくりの予習を徹底するとともに、継続して漢字テストを実施する。
	語句に関する知識や調べたことをもとに資料を書く問題について、県平均・全国平均は超えている。さらに、学力を伸ばすために、資料について扱う学習機会を増やしたい。	意味調べや短文づくりを行い、生活に使用できるようにする。更に、フラッシュ教材を使った帯学習を行う。また、資料を書く問題については図表を効果的に用いた文章指導を行う。
	文学作品の内容の読み取りに関しては、登場人物の心情を捉えたり、描写を比較して特徴を捉えたりすることについては、県平均・全国平均と同等である。	授業や家庭学習で読み取った内容を書きまとめさせるとともに、発表の場を設けて交流させる。
	同時に提示された複数の資料をもとに、書かれている内容を分析して自分の意見を述べる力と書いた文章を推敲する力については、全国平均に比べてやや弱い面があり、補強を図りたい。	複数の資料や文章を読み取り、それをもとに自分の意見を述べる練習を行う。
数学	計算力は県平均・全国平均を大きく超えてはいるが、文章題を読み取る力や説明する力など応用する力をさらに伸ばすことが望まれる。	文章題の苦手意識をなくし、説明する力を身につけるため、ペア学習や班活動を取り入れて、教えあうことで理解力や説明力を付けていく。
	式の意味を言葉で説明することは、県平均・全国平均を大きく超えてはいるが、数学的に説明する機会を増やすことで改善を図りたい。	口述での説明を自分で考えて記述させるようにする。
	全国的な傾向ではあるが、長い問題文や数学的な説明を求められる問題については、ほかの問題と比べて、無回答率が高くなる傾向にある。	小テストや復習プリントなどで文章題に取り組みせるとともに、自分の考えを道筋を立てて述べたり、数学的に説明したりさせる。さらに、説明の型を覚えたり、班で説明しあう数学的な活動に取り組んだりすることで、数学的な表現力を育成する。
英語	定型的な問題については、県平均・全国平均を大きく超えて高い正答率であったが、対話の流れにあった英文を書くこと、テーマに沿って具体的な内容を英語で書くことでの正答率はやや低かった。また、頻出単語についてはよく書けるが、さらに、語彙力を高めるための対策を考えたい。	単元ごとに単語テストをするなど、繰り返し学習させて、単語を定着させる。まとまった英文を書かせる機会を増やす。記述した英文をNETに添削してもらったり、発展的な問題を、定期考査に出題したりするなどの工夫を行う。
	「書くこと」の領域において、活用する力を伸ばしたい。3人称単数現在をはじめとする基本的な文法事項を活用しながら、まとまった文章を書くことで改善を図りたい。	まとまった文章が書けるように、NETとも協力して文法的なミスに関する指導や文章構成を踏まえて書く指導などを行う。